

中央・新旭川まちづくり推進協議会 会議録 令和5年度第3回

会議概要	
日時	令和6年2月22日(木曜日) 午後6時30分から午後8時30分まで
場所	旭川市総合庁舎 7階 大会議室C
出席者	委員（13名、正副会長以外は50音順） 山田会長，中村副会長，石橋委員，伊藤委員，上野委員，大久保委員，桜木委員，佐藤委員，三本松委員，鈴木委員，素野委員，十川委員，福原委員 （欠席者 今井委員，高橋委員，谷越委員，蔦原委員，本多委員，山岡委員） オブザーバー 旭川市地域まるごと支援員 成田支援員 事務局等 市民生活部 林部長，地域活動推進課 岩崎次長，谷口補佐，浅沼 中央公民館 安住館長
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 まち協の現状と将来像の検討 資料2 中央・新旭川まちづくり推進プログラム（改訂案） 資料3 『子どもと地域のつながり』（前回の意見交換概要） 当日配付資料 補助事業の進捗状況報告

（補足）「中央・新旭川まちづくり推進協議会」を以下「協議会」という。

議事の内容

1 開会

出席委員の確認，オブザーバー出席者の紹介を行った。

2 地域まちづくり組織の在り方について

資料1に基づき事務局からの説明の後、組織の在り方について意見交換を行った。

主な内容は次のとおり。

(事務局)

- ・協議会が平成22年度に設置されてから10年以上が経過した。現在、市の機関である協議会が地域にとってより活動しやすい組織とするため、組織の在り方について検討したく、ご意見をお伺いしたい。

(委員)

- ・現在、実行組織に対する事業費補助金があるが、今後、新たな組織となった場合には同じような支援があるのかどうか。
- ・新たな組織となった場合、どこの団体が参加するのか、中心的な団体はどのあたりになるのか。

(事務局)

- ・地域活動の事業費については基本的にこれまでどおり支援できるよう、今後、しっかりと検討していきたい。
- ・組織へ参画する団体については、これまで他地域の協議会でも意見をお伺いしている。地域の様々な団体が参加している既存の団体がある場合には、そこに新組織の役割を担ってもらうという方法もあるかもしれない。地域ごとに、実情に合わせた将来像があるかもしれない。
- ・組織の形や具体的な支援について、現時点で方向性が決まっている訳ではないが、皆様のご意見をお伺いしながら検討して行きたい。

3 中央・新旭川地域のまちづくりの検討と推進について

(1) 補助事業の進捗状況報告

今年度、活動を実施している2事業について、当日配付資料のとおり進捗状況を確認した。

ア 知新っ子見守り事業

実施団体の知新っ子を見守る会に参画する三本松委員から、進捗状況について報告があった。

主な内容は次のとおり。

- ・知新小学校の児童の見守り活動として、市民委員会、民生委員児童委員、PTAなどが協力して毎月1回、7時45分から8時10分頃まで、通学路の交差点で見守り活動を実施している。

- ・2月5日には、山内会長と私どもで知新小学校を訪問し、知新っ子による交通安全標語のコンクールで入賞した子どもたちに賞状を贈呈したほか、標語を印刷した啓発用ポケットティッシュを配布させていただいた。
- ・2月13日には、知新小学校のグラウンドにおいて冬を楽しむ会を実施し、知新小学校の1,2年生、市民委員会、民生委員、PTAなどの皆さん28名と、旭川市立大学経済学部の黒川教授と黒川ゼミの学生さんが10名ほどが集まり、ペンギンの雪像、ミニ雪だるまづくりや、学生企画による〇×クイズを行った。児童と協力してできあがった雪像には、地域の方がフェルト生地で作った目、鼻、口を飾り付けるなど、楽しい交流とすることができた。

イ 朝日地区地域交流「新春もちつき会」

実施団体の朝日地区地域交流「新春もちつき会」実行委員会に参画する十川委員、素野委員から、進捗状況について報告があった。

主な内容は次のとおり。

- ・1月7日に中央公民館において「新春もちつき会」を実施し、参加者は82人、その他に地域の方々がスタッフとして30人程協力してくれた。
- ・当日は、混雑を避けるために、10時30分と11時30分の2回に分けて実施した。
- ・もちつきを見たことがないという高校生が参加し、地域の方からもちのつき方を教えてもらい上手にできるようになり、微笑ましかった。
- ・中には80歳を超える方にももちをついてもらい、多くの子どもさんや親御さんがそのかっこ良い姿を見守っていた。
- ・コロナでなかなか機会がなかったが、子どもから高齢者まで、楽しく交流することができた。
- ・小学校の児童に参加の有無を確認し、回覧板などを活用したが、市のアプリケーションなどでも宣伝できればよかった。

(2) 中央・新旭川まちづくり推進プログラムの改訂

資料2に基づいて事務局からの説明を受け、説明のとおり改訂することを確認した。

(3) 意見交換『子どもと地域のつながり』について

子どもと地域のつながりをテーマとし、2つのグループに分かれて意見交換を行い、その内容を発表し全体で共有を図った。

共有した内容については、今後も引き続き協議を行うこととした。

意見交換における主な内容は次のとおり。

- ・子どもと地域との交流の機会をどのように増やしていけたらよいか、最初に出てきたのはラジ体操、前回もお話したが、子どもとお年寄りが顔見知りになることができ、良いイベン

トで、地域の交流の場としては素晴らしいのではないか。例えば子どもだけでなくお年寄りにも来ていただくのがよい。

- ・地域の人が集まって食事をしながら交流ができるというのは、災害のときの避難所運営にもすごく役立つのではないか。
- ・ビー玉の遊び方やこまの回し方をおじいちゃん、おばあちゃんから教わるなどして、交流の場を提供するという事例は多い。
- ・西地区では、子どもを中心に多世代交流を深めようという取組が行われており、親御さんにも一緒に参加してもらい、地域のまちづくりを見てもらう機会にもなっている。
- ・今後は企業などにも応援してもらえると良い。例えばコンビニスタンプラリー、酒造会社、役所などでも良いと思うが、交流しながら地域のこと、企業のことを知る機会にもなる。
- ・親御さんたちにとって切実な問題としては、近くに児童館などの子どもの居場所がない場合、親が共働きをしていると、子どもが放課後に行くところがないということになる。地域としても向き合っていかなければならないと思うが、このような課題解決の時こそ、日常からの地域の人たちとの交流が大切で、交流を通じて子どもや親御さんとの接点を持ち、積み重ねていくことで、そういった問題に向き合っていけるのではないか。
- ・子どもと地域の関わりは、やはりPTAとどうつながることができるかが大きな問題で、PTAが求めている事を知る、教えてもらうことが大事。また、例えば、地域が勉強や遊びを見てあげようと思っても、それをどう伝えていくかということも考えなければならない。
- ・町内会の課題として、子育てをしている世帯があまり加入していないので、小学1年生にプレゼントをしたくても渡せない。町内会として子どもに関わりたくてもなかなか難しい。
- ・子ども食堂に関しては、一定の対象者だけでなく、地域の誰でも参加できるような形で活動できると良いのではないか。
- ・小学校と地域の交流イベントについては、これまで日曜日に実施していたが、働き方改革などで平日に実施することになり、PTAの参加が難しくなってしまった。学校と地域の関わりに関しては、市民委員会に学校との窓口となる担当者を配置し、うまく学校との連携を図っている地域もある。
- ・地域により、範囲が広がったり、組織が多すぎたりと一斉に活動することが難しい場合がある。見守り活動など、地域が団結して取り組める方法も模索しなければいけないのではないか。

4 その他

今回が任期2年間の最後の協議会となるため、会長から挨拶があった。

5 閉会